

REHSE勉強会 REHSeminar

レゼミナール

2016年
REHSEmi
第3回!

大学等研究機関や企業が抱える様々な課題について、集中セミナー形式の勉強会を開催します。本勉強会は、テーマに沿った頭出しとなる講演や話題提供を行った後、皆でディスカッションを行います。

第3回

情報・コンテンツの 共有と活用



2016年10月31日(月)

13:30~16:30 東京大学本郷キャンパス
工学部5号館2階 実験講義室(233A)

第1回 (平成28年4月28日(木) in 東京)

「実験研究におけるリスクアセスメントとは」
(keyword: 法対応、実験リスク、教育)

第2回 (平成28年7月28日(木) in 大阪)

「合理的な実験室計画の考え方」
(keyword: 多様性、非正常性、フレキシビリティ、共有)

第3回 (平成28年10月31日(月) in 東京)

「情報・コンテンツの共有と活用」
(keyword: 教育手法、事故事例、安全管理体制、外国人)

第4回 (平成29年1月26日(木) in 名古屋)

「創造性と自主的リスク管理のバランス」
(keyword: 保護具、相互巡視、OJT)

集中セミナー形式の勉強会をシリーズで開催!

第3回テーマ

「情報・コンテンツの共有と活用」

実験研究における安全を考える上で、「共有」は一つの重要なキーワードである。例えば、一つの実験室内で複数の実験シナリオが同時に存在する場合、その時間・空間的共有による複合的な要因によって、個々のシナリオでは発現しないような新たなリスクが生じる可能性がある。また、器具や装置の共有、給排気環境の共有、化学物質や廃液容器の共有など、全体の最適化を図る上で、個別の作業環境の最適化だけでは解決することができない計画上の要因が多数あることも、実験室の大きな特徴である。さらに、適切かつ合理的な安全管理体制を構築するためには、どのような情報をどのように共有し、どのように活用するかといった、ソフト面での共有についても議論を深める必要がある。第三回の勉強会では、「共有のあり方」をテーマとして取り上げ、実験研究における「共有」に関する現状と課題を整理するとともに、様々な研究が行われる実験室の合理的計画のために、ラボユーザー、事務、安全管理部署、メーカーといった立場が異なるステークホルダーがどのように情報を共有し、活用するべきかといったケーススタディを実習形式で行う。

講師・コーディネーター：大島義人（東京大学教授）、山本仁（大阪大学教授）

参加申し込み

- 応募者多数の場合、先着順で締め切らせて頂く場合があります。
- 参加申込方法：ご所属とお名前を事務局メールアドレスまで送付ください。第1回時に全4回の出席を申し込みされた方は今回の分の申し込みは不要です。
- 参加費：資料代として3,000円（会員）、5,000円（非会員）
※当日、会場にてお支払いください。

※ 当初、10月24日を予定しておりましたが、都合により、10月31日に変更させて頂きました。あらかじめご予定頂いていた方々には大変申し訳ありません。



NPO法人 研究実験施設・環境安全教育研究会
Research for Environment, Health and Safety Education

問い合わせ先 REHSE 事務局

E-Mail : jimukyoku@rehse2007.com
TEL : 080-4383-2007
〒277-8563 千葉県柏市柏の葉5-1-5
環境棟468号室 東京大学 大島教授室内